

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191400266		
法人名	医療法人 鴻仁会		
事業所名	グループホーム ふかせ		
所在地	北海道函館市松川町30番12号		
自己評価作成日	平成26年1月14日	評価結果市町村受理日	平成26年3月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0191400266-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成26年2月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①当法人理事長が町内会会長としても活動しているため、町会とも親密な関係にあり行事へ参加しやすい。
②母体が医療法人のため医療連携が確立されており、入居者様も安心して生活を送る事が出来ている。
③ホールより全居室が見渡せる環境であり、居室より出られると職員、他利用者様の顔が見られる為、安心して生活を送っている。
④ホール内に平行棒が設置されており、いつでも気軽に運動が行える。
⑤併設されている建物内ではデイケア、認知症デイサービス、介護付有料老人ホーム、ヘルパーステーション、住宅型、診療所など多様な施設が完備されている他、グループ全体でも各種サービスが整っており、利用者様の状態に合わせた施設選択が可能となっている。また当法人グループは、状態が悪化したからといっても退居の心配はない。グループ内で各種サービスを行っており、ご家族様が希望すれば最期までグループ内の施設で支援継続する仕組みになっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームふかせは函館市街地の中心部に近い住宅街に静かな立地し、近くには古い市営住宅が数棟ある昔からの住宅街である。法人理事長が町内会会長を努めており、町内会の餅つき大会などの行事には利用者が参加し、8月には町内の方々や家族が大勢集まって事業所の屋上で花火を見物したり、食事をするなどして積極的に交流している。当事業所は母体が医療法人であるため24時間オンタイムでの医療連携が確立されており、利用者は安心して健康で笑顔あふれる、その人らしい暮らしを送っている。職員は法人全体の研修会や事業所内の勉強会などで研鑽を積む機会も多く、質の高いケアサービスを提供するために積極的に取り組んでいる事業所である。
--

V. サービスの成果に関する項目(Aユニットアウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有し日々報告・連絡・相談(※ほうれんそう)を徹底し、利用者様に統一した支援が提供出来る様に取り組んでいる。	開設当初より地域交流、社会参加を基本とした事業所独自の理念を作り、管理者と職員が話し合い確認する機会をもち、共有し日々のケアに繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人の理事長が町会長であり関係は良好。また町内会へ加入し行事への参加やボランティア活動など、地域へ貢献出来るよう積極的に取り組んでいる。また利用者との散歩時等挨拶し、顔馴染みの関係である。また何かイベントがある際など、協力関係にある。	利用者は春と秋の町内清掃活動に職員と一緒にボランティア参加している。町内会の行事や事業所の行事などで盛んに交流し、顔馴染みの関係や協力関係を築いている。七夕祭りには近所の子供たちが多く訪れ、利用者と共に楽しいひと時を過ごしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事・ボランティア活動への積極的な参加や、町内会・ご家族の方々に運営推進会議へ出席して頂けるよう呼び掛け、認知症の人の理解や支援の方法を含め、事業所内の理解を広げている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	規定通り2カ月に1回実施(奇数月)。利用者様・町内会・包括・行政・ご家族様・法人関係者・又様々な職種の方々に参加して頂き、意見交換・助言を頂き、サービス向上に努めている。	年に6回包括・町内会・家族・利用者・理事長など様々な立場の方が出席して開催し、パソコンを利用して暮らし振りなど各種報告を行い出席者から意見やアイデアをいただいている。季節によってテーマを決め、講師を招いてワンポイントレクチャーを行いサービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは日頃より連絡を密に取り、協力関係を築いている。また助言を頂き、サービス向上に取り組んでいる。	市の担当者とは事業所の取り組みなどを伝え、助言やアドバイスをいただく事で密に連絡を取り、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置。スタッフミーティングの際や随時会議を行い、身近に起こりうる問題を中心に話し合いをし、身体拘束防止に努めている。	毎月のスタッフ会議や日常的に他施設の事例を基に研修会や勉強会を繰り返す事で、予測される弊害について理解を図り、安全を確保しつつ抑圧感のない自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部勉強会や外部研修など、虐待についての研修会に参加し、勉強をする機会を設けている。また身体拘束と同様、職員間で意見交換の場を設けている。(※昨年施設内で虐待の疑いがあり、内部告発がりましたが結果は不正事実でした。このような事が二度と起きないようにしっかり対応していきたいと思います。)		

グループホーム ふかせ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	開設当初は職員全体を通し中々学ぶ機会が少なかったが、昨年は内部の勉強会・外部の研修や講習などへ積極的に参加する事で少しずつ理解する事が出来ている。今後は更にその知識を高めていけるよう職員全体に呼び掛けていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は時間を掛け、利用者様と御家族様に分かりやすいような言葉で伝え、不安や疑問を引き出すように尋ね、理解・納得して頂けるまで、十分に丁寧な説明を行うように心掛けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情に対する窓口は設けており、面会時や運営推進会議を通して利用者様・ご家族様の意見・不満・苦情を重要視し、常に改善に向けた取り組みを行っている。又、事務所窓口に目安箱を設置しているが中々ご家族様が投函して頂けていない実態があり、法人として昨年秋季頃より毎月の請求書の中にサービス利用アンケート表を添付したところ、匿名で何名か要望が書かれており、早速サービス改善に向け取り組んでいる。	面会時や運営推進委員会・毎月請求書と一緒にアンケート用紙を同封して、意見や要望を伺っている。表出した課題は早速検討し運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月定例のスタッフミーティングや、2ヶ月に一度行っている代表者との会議内(懇話会)において、職員が自由に意見や提案を発言出来る機会を設け、その場で出た意見や提案は職員全体で話し合い、その後の業務に反映させている。	定期的なスタッフミーティングや代表者との懇話会・業務改善委員会で意見や提案を表出し、課題は全職員で検討し運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各委員会・入居者担当を職員個々へ振り当て、責任をもって働けるよう取り組んでいる。また上司・職員と話し合いの場を設け、職場環境を改善するよう取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1度法人内全体での勉強会を行っている。外部研修に関しては、各職員公休を利用し積極的に参加している。また働きながらお互いの意見を交換したり指導したりする事により、専門性・人間性を深めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実践者研修生の受け入れ、法人内での行事参加・内部研修・外部研修等を通じ、同業者との交流・情報交換を行うことにより、意見を参考としサービス向上に活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問・面談、入居時に本人やご家族様と時間を掛け話し合いをする事により、要望等の理解・把握に努め、安心して過ごしてもらえるように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問・面談、入居時にご家族様から話しを聞く事により理解・把握に努め、信頼関係作りを行なっている。また、ご家族様だからこそ持つ感情や起伏等を受け止める努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談等により状況把握に努め、本人が必要としている事、ご家族様が望む支援を相談時に見極め、安心してサービスが提供出来るよう取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	居室に閉じこもらないよう職員は常に『出来る事・ご本人がしたい事』を支援し、対話・傾聴に気をつけ信頼関係を築いている。また他者との共有時間の一環として、家事作業やレク、行事など互いに支え合い、信頼しあえる関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所で家族関係が終わる事はない。今まで身近で関わってきたご家族様と、これから関わっていくホームが共に手を取り、今までとこれから先を見据えしっかり支えていきたい。また、ご家族様とは、面会時や電話連絡にて情報の交換をしている。今後家族会発足に取り組み、家族同志及び職員との交流を深めていければと思っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一定の入居者様に関しては、馴染みの人(友人・知人など)面会は継続されているが、中々行きたい所への外出などは出来ていない。	知人や友人の訪問は継続されている。管理者の知人の美容院を長年利用することで馴染みの関係が構築されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格・身体状況・認知度などに合わせて座る席を考慮する事で関係作りを行なっている。また交流の機会として身近な家事作業・レク・行事等にお誘いし、日頃から互いが励ましあい、切磋琢磨する事で意欲向上に繋がったり、関係が円滑になるように支援し、どうしても気の合わない方同士の時は、職員が間に入り仲を取り持っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院等によりサービスが終了しても、お見舞い・電話連絡・相談・他サービスを紹介したりと支援行っている。また当法人グループは、状態が悪化したからといって退居の心配はない。グループ内で各種サービスを行っており、ご家族様が希望すれば最期までグループ内の施設で支援継続する仕組みになっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族・親戚・知人・友人等から情報収集し検討を重ね、会話の中や表情等により暮らし方の希望を汲み取り把握している。また居室にはなるべく本人が昔使っていたものを置くようにしている。	日頃の関わりやすキンシップ・観察を大切にしたり、さり気ない会話の中から把握に努め、また、家族や知人からも情報を得ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様や入居前施設の関係者から情報を収集し把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活歴や入居前の情報、本人との関わりの中で、情報の把握に努めている。また時間が許す限り担当職員と一緒に一人ひとりの状況を耳で聞き目で見て確認し、介護記録をこまめにつけ一日の過ごし方の分析を行っている。また体操や個別でレク・運動を随時行い有する力の現状維持・UPに努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成時は、担当職員と面会等により訪問されたご家族様と本人を交え、話し合いの時間を作っている。期間に応じたプラン変更の他に、カンファレンスやサービス担当者会議を開催し情報収集に努め、必要との判断があれば期間に関係なく新たなプランを作成している。	担当者が中心になってモニタリングを丁寧に行い、定期的に医師・担当者・管理者・ケアマネが出席してカンファレンスを開催し、本人や家族の意見や要望を取り入れた介護計画を作成している。計画と実施状況の連動性が確認できる様に記録の記載方法を工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	小さな出来事も記録し、毎日の申し送り・連絡ノート・毎月のスタッフトーキングなどにて情報交換・情報の共有をし、ケアの見直しに活かしている。またご家族様へはその都度電話連絡・手紙・面会時に近況報告し生活の様子を伝えている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて随時相談・対応支援している。また共同生活というホームの機能を最大限に生かし、いつでも職員が側に居る為、昼夜問わずに利用者様の要望を出来るだけ叶えて上げれるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設行事の際は職員の余興や、ボランティア団体の方をお招きし、芸を披露して頂いている。又町会とは互いに協力関係にあり、イベントなど互いに参加呼び掛け交流している。又特に防災に関しては昨今他施設での火災が取り上げられている為、消防署との連携を強化している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に本人・ご家族様と話し合いにて、かかりつけ医療機関、及び当法人医療機関への主治医変更否かを決めている。またその他の医療機関については、受診希望があれば主治医と相談の上、必要か否か判断し、医療を受けられるよう配慮している。	利用開始時に本人や家族と話し合い主治医を当法人医療機関への変更も可能にしている。他科への受診が必要になった時は、主治医が紹介状を作成し家族や職員が同行し、受診の結果は都度報告している。24時間オンタイムで適切な医療が受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制として毎週看護師が訪問した際、利用者様の健康管理・認知症の症状など相談・指示を頂いている。また急な場面(生命の危機、事故など)においての状況判断に苦慮した際はすぐに連絡をし助言を受け支援に活用している。また24時間365日連絡体制が整っている為、入居者様・ご家族様も安心している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、医療機関との連携を密にし、早期退院出来るよう話し合っている。また入院時必要な施設情報(既往歴・生活歴・薬剤情報等)が記載されたフェースシートを提出し、情報の共有に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方は事前に本人・ご家族様の意向を聞き対応している。また日々生活の状況や段階に応じて、ご家族様・主治医共々医療関係者と話し合いを進めている。また施設の特徴として深瀬医院5Fに位置付けられている為、緊急時においても2F病棟に入院する事や、訪問看護などで手厚い支援が行なえる状態にある。	終末期や看取りに関する指針を作成して利用開始時に本人や家族に説明し同意書を交わしている。終末期が近づくと状況に応じてインフォームドコンセントを行っている。職員は日頃からターミナルケアの勉強会や話し合いを積み重ね意識統一を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故対応マニュアルがあり、応急手当に関しても、初期対応は身につけている。今後は更に実践力を身につけていきたい。また急変時は併設している協力医療機関が早期対応を行う体制となっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害に備えて消防立会いのもと、年2回(春・秋)母体施設全体で避難訓練を行っている。今後消防関係者の方も出席して頂き、運営推進会議内で地域との協力体制について、話し合いの場を設けていきたい。また昨年出来なかった災害対策に関しても検討していきたい。	年2回消防訓練シナリオを作成し消防署の立会いの下、昼・夜を想定した避難訓練を隣接する母体施設と合同で実施している。終了後は全職員で課題を見つけ、次に向けた目標を決めている。今後は運営推進会議で地域の方に参加を呼びかけ、協力体制の強化を考えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に人生の大先輩として尊敬した言葉遣いや対応をする様に心掛けている。また自尊心が傷つけないよう働きかけている。	言葉遣いや接遇に配慮した対応に心がけ、本人の誇りを損ねる事がないように職員間でチェックし合っている。書類は一定の場所で保管し、しっかり管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の思いや希望を自由に表出出来るように一对一のコミュニケーションの時間を多く取っている。また居室に本人やご家族様の希望する、馴染みのある家具や生活用品を持ち込んでもらっている。		

グループホーム ふかせ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時の状況に応じて、入居者様のペースに合わせた生活が出来るように心掛けているつもりだったが、去年は個別のレクに関して、毎度同じ内容に偏り過ぎて皆さん飽きている様子だった。今年は個別レクの充実を念頭に皆がその時にやりたい事が出来るように取り組んでいきたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人・家族好みの服装・髪型を尊重し、定期的に訪問理美容を利用している。また家族とのお出かけの際や、行事などでは女性職員がお手伝いし化粧をしており、本人も喜んでいる。		

グループホーム ふかせ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養課管理の下、献立が作成されており、個々のニーズに合わせ、普通食・刻み・ソフト食に分け誤嚥しない様調理方法を工夫している。またイベントの際は事前に栄養課と相談し準備している。月に一度法人内給食会議を行い各事業所より有資格者(調理師、栄養士など)が集まり意見交換をし献立に反映させている。また日々の生活の中で、利用者様と一緒に下拵え・食事・片付けをしていたが、調理過程において入居者様の参加頻度が極端に乏しく、有効時間の活用として法人内で検討した結果、昨年8月より3食ともに配食サービス(2F厨房で調理し、施設は盛り付けるだけ)開始となり、この時間を介護にあてる事となった。	食事は安くておいしい料理を提供するために様々な工夫をしている。ご飯と味噌汁はグループホームで作るがそれ以外の副食は同じ建物の2階にある栄養課の厨房で一括調理されて各ユニットに届けられる。盛り付け・セッティング・後片付けは利用者と職員が一緒に行っている。月・水・土の手作りおやつや誕生日のケーキの飾りつけは利用者と職員が会話を楽しみながら一緒に行っている。ドライブの際に外食を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養課管理栄養士が献立表を作成しており、個々の身体的状況や既往症状を基に、食事・水分同様、見合った量・味付けを工夫し、配食サービスにて事業所へ食事が届く仕組みになっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を理解し毎食後、口腔ケアを行っている。(※磨き残しがある場合は介助している)義歯についても洗浄・就寝時ホリデント使用にて除菌対応を行っている。また院内勉強会の当番で、併設されている歯科も講義をしてくれており、勉強の機会やいつでも気軽に相談出来る環境にある。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ケアプランの中での排泄に関する項目について、ADLの維持・UP等運動を行なう事で、排泄がスムーズに続けられる支援や、温度板(※入居者様個人の1日のデータ記載)を参考にトイレの声掛けや誘導を行い、失禁やオムツの使用率が少しでも軽減出来るよう日々取り組んでいる。また排泄の失敗に対しても自尊心に配慮し速やかな対応を心掛けている。	自立している利用者も数人いるが、ほとんどの利用者は排泄パターンの把握・仕草・習慣を見極めタイミングよく声がけや誘導をし、理学療法士と相談しながら立位を保つための訓練を行い時間をかけて見守るなど自立に向けた支援をして、失禁や衛生用品使用の軽減に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事提供に関しては配食サービスへ変更となった為調理する事はなく栄養課管理。水分量に関しては上記同様で温度板を活用し摂取不足の方へ臨機対応。また毎朝全体でのラジオ体操・個々の身体状況にあった運動を行う事で、無理せず身体を動かす習慣を取り入れている。それでも排便困難な場合は看護師・主治医へ相談・指示を頂いている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様に合わせた入浴は出来ておらず、業務規定により週3回固定日(月・木・土)実施している。	リフト付の24時間循環式浴槽で週2回水抜きをし掃除と消毒を行い点検管理チェック表を利用して衛生管理を徹底し常に清潔を保っている。個別入浴を基本とし、利用者は職員とお話をしながらゆっくりと入浴をしている。	

グループホーム ふかせ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの性格や生活習慣に合わせて声掛け方法の工夫や、状態に応じ入眠前の足浴や安心して眠れるように、照明やTVの音の配慮をしている。また定期・随時リネン交換や、毎日居室清掃をする事で、いつでも清潔な環境で安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	法人として服薬マニュアルを作成し各施設運用している。服薬管理の部分で以前は施設管理だったが、誤薬が多い事から現在は誤薬の可能性を軽減させる理由から、指定の薬局が朝・昼・夕と箱管理で分け、施設へ届けてくれる仕組みになっている。また服用時は飲み込み確認するまでその場を離れない。また薬情報を個人ファイルに綴っており、いつでも全職員閲覧可能。変更時は薬局より連絡・変更情報が届く。また随時職員間の申し送りを徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各入居担当者を中心に、ご家族様からの聞き取りや、本人の生活歴・普段の会話より本人の希望を把握し、得意な事ややりたい事が出来るよう続けられるよう配慮し、意欲向上に努めている。(例:各種イベント、家事作業、レク【トランプ、カルタ、折り紙、行事工作、裁縫】など)。		

グループホーム ふかせ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員不足が続いており、中々入居者様の希望に添った外出は出来ていない。施設内の一環としてバスレク(※全体での外出)が主体となっている。地域行事に関しては定期的に参加継続しており楽しんでいる。	日常的な散歩や買い物には即応できていないが、家族に協力を求めたり、大型スーパーのネット販売を利用している。年間外出計画を作成してお花見や紅葉狩りを実施し外食も楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在入居者様個々での現金管理はしておらず、契約の際に家族代行・ネットスーパー利用の主旨を説明し同意を得ている。ネットスーパーに関しては、嗜好品等必要な物を毎週火曜日までに担当者へ発注し、注文する事で水曜日に配達して頂く仕組みになっている。またそれ以外には、イベント等で使用するお金に関しては、施設で立替し翌月払いとなっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて電話を掛けたりかかって来た時は、伝えて話をして頂けるように支援している。また極一部の方ですが、ご家族様の要望により携帯電話持参しており、好きな時にご家族様と連絡を取り合っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明や音量、室温等には配慮をしている。又、季節感を採り入れるため、行事に合わせた飾りや写真を貼ったり、TV・BGMを活用し居心地の良い空間作りに取り組んでいる。昨年の反省点から狭いですが利用者様個々・面会者等の談話スペースを確保し活用している。	室温・湿度に配慮し加湿器や洗濯物を干して調節をしている。居間には四季折々の飾り付けをしたり行事の写真の写真を貼って季節感や温かい雰囲気を出し、懐かしい音楽を流して居心地よく過ごせるよう取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の状態(※認知症、ADL、気の合う方など)に合わせて席を配慮し、安心出来るような居場所作りに取り組んでいる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用前に本人・家族と相談し、居室には以前から使用していた馴染みのある家具を持参して欲しい事を伝え、出来るだけ以前の暮らしのような雰囲気を保てるよう支援している。	本人や家族と相談して使い慣れた冷蔵庫やタンス・食器棚を持ち込んだり、思い出の写真を飾って利用前の見慣れた部屋の雰囲気を作り出して居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっている為、車イスを使用している方、歩行が不安定な方も手すりを使用して生活している。また出来るだけ本人にあった自立支援が出来るよう、家族・本人の話を傾聴し取り組んでいる。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191400266		
法人名	医療法人 鴻仁会		
事業所名	グループホーム ふかせ		
所在地	北海道函館市松川町30番12号		
自己評価作成日	平成26年1月14日	評価結果市町村受理日	平成26年3月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「Aユニット」に同じ

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0191400266-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成26年2月21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(Bユニットアウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Ｂユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を作り、それを職員全員で実践していき、日々の利用者様に対するケアに繋がるよう取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事や、町内の清掃活動へのボランティア参加、また、施設での行事への参加呼びかけなど、地域の一員として、地域に貢献できるよう積極的な取り組みを行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会のボランティア活動への参加、運営推進会議への参加の呼びかけなど、認知症の人の理解や支援の方法などを、地域に対して活かすよう取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	規定通り2カ月に一度実施。利用者様・町内会・包括・行政・ご家族様・法人関係、その他様々な職種の方々に参加して頂き、意見交換や助言を頂きながらサービスの向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者とは日頃より連絡を密にとり、事業所の実績やケアサービスの取り組みなどを積極的に伝え、また、それらについて、助言などを頂きながら、協力関係を円滑に築けるよう取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、毎月のスタッフミーティングの際や、その他、随時に行う委員会での話し合いの中で、身近に起こりうる問題などを話し合い、身体拘束防止に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	内部の勉強会だけでなく、外部の研修などにも参加し、虐待についての知識を職員全員が身につけようと努力している。また、高齢者虐待についてのレポートを各職員が書くなど、身体拘束と同様、各自積極的に虐待の防止に努めている。		

グループホーム ふかせ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会として、内部の勉強会・外部の研修や講習などがあり、それらに積極的に参加するようにしている。今後は更にその知識を高めていけるよう努力をしていかなければならない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、利用者様や御家族様がわかりやすいように、丁寧な言葉で時間をかけて説明するよう心掛けている。また、不安や疑問に思うことに対しても、納得して頂けるまで、十分に丁寧な説明を行うようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情に対しては、事業所窓口に目安箱を設置している他、毎月の請求書の中に、苦情などを含むアンケート用紙を添付している。また、普段から利用者様・御家族様からは、意見や不満、苦情を聞き取るようにしており、それらのことを真摯に受け止め、改善に向けた努力・取り組みを常に行っている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1度スタッフミーティングを実施。職員が自由に意見や提案を発言できる場を設けている。その場へ出た意見や提案は、職員全員で話し合い、その後の業務に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員へ入居者担当・各委員会を任せるなど、各々がやりがいがあり、責任感を持って働けるような環境作りに努めている。また、上司と職員の話合いの場を設け、労働時間や労働条件、その他の問題点などについて話し合い、改善するよう取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一度法人グループ内全体の勉強会を行っている。外部研修などは法人の拡大予定もあり管理者研修・実践者研修に各職員が有給等を使って参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実践者研修の研修生を受け入れ、同業者他施設のとの交流・情報交換を行うことにより、サービス向上に活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Ｂユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に本人様や御家族様と話し合いを持ち、要望等の理解と把握に努めコミュニケーションの時間を多く持ち、安心して過ごして頂くように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に本人様や御家族様と話し合い、御家族様だけが困っている事だけではなく、本人様の話も聞きいれ相互が不安なく安心して生活して頂く努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	先ず第一に本人様が何を望んでいるのか、家族様が望む支援は何かを話し合い、わからない事等は直ぐに電話などでお聞きしケアプランに取り入れ見極めを行い、安心して生活して頂けるよう努力している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事作業(食事の盛り付け・洗濯もの干し)等に参加して頂き、『出来ること』『出来ない事』の見極めなどもおこないつつ、互いに支え合い信頼関係を構築している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設内で行事・イベント等がある時は極力家族様にご案内と参加を促し、施設内に置いて本人様がどのような生活を送っているのかを実際に見て頂き、家族様からの要望もすぐに反映される支援をおこない、本人様との繋がりが断たぬよう取り組んでいる。また面会時や電話連絡にて情報の交換も行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様が希望した時に面会・外出などは出来ておらず、施設側より提供した町内会の行事や地域の催しに参加されているのが実情である。面会頻度も少なく、馴染みの人や場との関係継続については今後の大きな課題である。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を考慮し、座る席などを考え、一人ひとりが孤立しないように取り組んでいる。また、レクや行事に他利用者様と一緒に協力して参加して頂くなど、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、電話による連絡・相談などを定期的に行い、出来ることをお話するなどの取組みを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人が思っていることや暮らし方の希望・意向について、本人と話すだけでなく、家族・親戚・友人などからもお話を聞き、本人の希望・意向を把握できるよう取り組んでいる。また、それが困難な場合は、本人の普段の表情や言動・行動から、本人本位となるよう検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様・親戚・友人、その他入居前の施設から情報を集め、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これまでの生活歴や本人との関わりの中での情報収集のほか、介護記録をこまめに書き、担当職員を中心に職員全員で心身状態などを観察し分析している。有する力等の現状の把握については、毎日のラジオ体操などを通して、状態の観察を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成時は、本人・家族・看護師・管理者・計画作成者による話し合いを行い、カンファレンスやサービス担当者会議を開催し、その場でそれぞれの意見やアイデアを聞き、それを反映した現状に即した介護計画を作成している。その他、必要に応じて、期間に関係なく、その時の現状に即した介護計画書を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果を記録し、申し送り・連絡ノートにて情報の共有を図っているほか、毎月のユニット会議の場でも情報の交換・共有を図っており、その内容を反映させ、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族とよく話し合うことで、その時の状況・ニーズを把握できるよう努め、そのニーズに随時対応・支援をしている。また、本人や家族の要望を聞き取り、グループホームという機能を最大限に活かした支援を行うよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の行事への参加やボランティア活動、施設での行事にボランティアの方々をお呼びして楽器の演奏をして頂くなど、地域と密着し、地域に貢献できるような積極的な取組みを行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に本人・家族と話し合いにて、かかりつけ医療機関及び、当法人医療機関への主治医変更の否を決めている。また、その他医療機関については、受診希望があれば医療を受けられるように支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度看護師が訪問し、利用者様の健康管理・受診の必要性などを相談。助言を受け支援に活用している。また、24時間365日連絡がとれるようになっており、緊急時にも直ちに対応できる体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、利用者様が安心して治療することができ、また、早期退院できるように、施設情報が記載されたフェースシートを提出し、情報を共有するなど、医療機関との連携を密に取っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方については、事前にご本人様・ご家族様の意向を聞き対応している。また、状況や段階に応じて、ご家族様・主治医その他の医療関係者を交えて話し合いを行い、チームとして支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故対応マニュアルがあり、全ての職員は、応急手当についても、初期対応についても、対応の仕方は身につけている。また急変時は併設している協力機関と連携が密に取れる体制になっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害に備えて、消防立ち会いのもと避難訓練を行っており、避難訓練後はすぐに全職員と話し合いを行うことにより、利用者が避難できる方法を職員各々が身につけている。また運営推進会議にて、地域との協力体制について話し合いを設けている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応については、普段から職員同士で話し合う機会を設け、お互いに指摘し合い、悪いところは改善できるような取り組みを行っており、利用者様に対しては常に尊敬の念を抱いた言葉遣いや対応ができるよう心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けにしても全体に対して行うのではなく、個人様一人一人と向き合い何気ない行動・言動などから本人様の思いや、希望をくみ取るよう働きかけ、最終的な自己決定の言葉を話しやすい環境作りも行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	当り前の事だが基本的には個人様の生活ペースで過ごして頂いている。ただ状況に応じて日中の最低限の覚醒時間(昼寝のし過ぎ)等居室内に籠もられないよう入居者様全員が楽しめるレクリエーションを検討中である。普段の会話の中からも本人様の希望など何気なくお聞きするように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今現在は外出も少なく他者に見られているという感覚をあまりお持ちでないようなので、その人らしい身だしなみではなく、最低限の身だしなみの支援しか行っていないのが実情である。(訪問理美容など。)		

グループホーム ふかせ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けから手伝って頂き、味噌汁の味付けや食後の食器洗い・食器拭きなども手伝って頂いている。入居者様も快くやって下さる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	当法人にセントラル厨房があり同グループ施設の食事提供を行っている。管理栄養士によるメニュー構成で量・栄養バランスとも充実した食事である。水分摂取に関しては本人様の嗜好もあるので状況・体調に応じた支援をおこなっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後少しお休みして頂いてから口腔ケアの声掛けを皆様に行い、出来る限り本人様にやって頂いている。義歯使用の方は洗浄剤など使用して清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をもとに個人様の排泄パターンを把握し、声掛け・誘導を行い失禁の軽減に努めている。排泄の自立に向けた支援では出来る限り介助に入らず見守りに重点を置いた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を基に水分摂取量の確保に努め、飲み物の工夫や毎日のラジオ体操などで出来るだけ身体を動かして頂いている。排便順調でない場合は医療と連携行い、薬剤にて対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は必ずご本人様の意向を聞いてから行うようにしている。時間帯だけでなく、入浴がいいのかシャワー浴がいいのかなど、希望なども必ず聞き、個々にそった支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や心身の状態をよく観察しながら、お昼寝をして頂いたり、その他の時間帯においても、様子を見ながら休息のため居室にて休んで頂いている。また、シーツ類の交換や衣服を随時交換して頂くことにより、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報を個人ファイルに保管。いつでも閲覧可能な状態にあり、職員は各利用者様の薬について、その目的などについて十分に理解している。また、服用時のマニュアルもあり、誤薬がないよう、全職員にマニュアルを覚えることなどを徹底している。薬が変更になった場合などは、状態の変化を観察し、随時話し合いを行うようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や日々の会話の中から、本人のやりたいこと・興味のあること・今できることなどを把握し、外出レクや行事に参加して頂くなど、本人の希望にそった支援を行うよう取り組んでいる。		

グループホーム ふかせ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Ｂユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望にそっての外出の支援は行なわれていない。利用者様の希望を募り、御家族様と相談しながら外出している。当法人理事長が町内会長をしており、町内の祭りや催し物に参加されている。その時期・季節でしか感じられない外出(花見・花火大会)等行い入居者様も大変よろこばれている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様には現金などは所持していただいていない。(紛失の恐れ等ある為)。買い物などは御家族様・職員が代行支援を行なっている。パソコンを使用しているのネットスーパー等も活用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様の希望があればその都度自由に電話を使って頂いている。掛かってきた電話などは本人様に出して頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明・室温・湿度(特に冬場)などは配慮を行なっている。居間(ホール)などは季節感を取り入れ、行事に合わせた飾りつけをしたり、外出時の写真などを貼ったりしている。CDで音楽を流すなど居心地の良い環境作りを行なっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各利用者様の状態に合わせた席の配慮をしている。共用空間自体があまり広くないので独りになれる居場所は居室になってしまう。ソファなどの設置も検討している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には思い出の写真や物・使い慣れたタンスなどを配置しており本人様が思い出に浸りつつ、今後の生活の中でも安心・安全に心地良く過ごせる居室の工夫を行なっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール内などは、段差の無いバリアフリー構造になっている。居室のドアも開き戸、洗面台も車椅子使用の方でも無理なく使える構造になっている。手摺も居室出入り口より掴まれる設置になっており安全・自立した生活が送れる環境にある。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム ふかせ

作成日：平成 26年 3月 9日

市町村受理日：平成 26年 3月 11日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	自施設が地域の中でどのように見られているか、地域の方々が気兼ねなく訪問・来所して下さるのが問題である。	近隣の方々が気兼ねなく遊びに来ていただける様な施設。社会との繋がりが途切れないよう、地域の方々に見守られながら利用者様が地域の一員として交流できる施設。	施設内で行われている誕生会等も、町内会に案内を送ったりして地域に於いて施設をオープンにし交流を深めている。こちら側をオープンにするだけでなく、こちら側からもオープンにし町内会のイベントには出来るだけ参加するようにしている。	1年
2	36	一人一人の人格の尊重をし、自尊心を傷つけないよう接してはいるが、時折「これはいかがなものか？」と思われるような声掛けなども聞かれる。自施設では当たり前になっている事が実は外部から見ると本人様の誇りやプライバシーを損ねているのでは。	いつ、何時、どなた様が来所されても極当たり前の接遇が自然と身につけており、利用者様の笑顔が自然と溢れる施設でありたい。	言葉遣いや接遇マナーを考えた対応を常に心掛け、本人様の自尊心などを傷つけないよう職員間でチェックしあう。外部の研修会などへ積極的に参加し自己研鑽に努める。	1年
3	49	外出の機会を増やす。冬場になると全くといって良いほど外出の機会が極端に少ないのが実情である。	多少寒くても秋口にはドライブレクなども行っているのので、その流れを冬場に持って行きたい。函館独自の冬のイベント等もあるので利用者様・家族様のニーズを取り入れる。	冬場の寒い日は転倒のリスクも伴うが、最小限におさえつつ、施設近隣の散歩なども行っていく。町内会館・近場の公園までの散歩、など。	1年
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。